

③ ママのためのワークショップ

6/29 7/25 10/1 11/5 (サンウエルぬまづ) 1/8 (マミングサロン yadorigi)

準備：案内チラシ作成、印刷、配布 (保健センター・子育て支援センター)

参加者申込み受付、質疑対応、詳細案内、キャンセル受付、託児スタッフ連絡
会場打ち合わせ、名簿作成、アンケート作成印刷、配布資料作成印刷、名札
領収書用意、アンケート集計

参加人数：親子37組

人員配置：栄養士1名 アシスタント1名 託児スタッフ3名/回

※ 事業の効果を記載してください。

ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業計画書において設定した、
成果指標と数値目標による評価を記載してください。

食の困りごとお助け隊は、昨年度に比べスタジオレッスンの要望が倍以上となっ
た。

これは電話やメールでの相談から、何度かやり取りをしながらアドバイスをし、ス
タジオレッスンを希望された方も多かったが、ママデイサービスからの誘導で同じ月
齢の赤ちゃんのママを集めてのレッスンができた。また一度スタジオレッスンに参加
した方から口こみで申込みをされた方もあった。離乳食や幼児食の悩みは、子どもの
成長とともに悩みも変化すること、ひとりひとり問題点に違いがあり、特に乳幼児期
は個人差が大きいので、個々への対応の必要性を感じた。

市の健診時だけではそのすべてのご相談に対応しきれない部分があり、ママた
ちにとって、食の悩みは小さなことでも深刻で、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や、
子育て経験者であり食の専門家である栄養士から話を聞くことが、解決の糸口に繋が
り、レッスンに訪れた方が多かったのだと思う。

「食」の不安に対する栄養相談は、利用者のニーズに対応するために、栄養士の
質の向上、利用者への最新情報の提供など、今後予想される相談件数の増加に向け市
の体制も整えて対応していただきたい、気軽に悩みを打ち明けられる場を提供する
という点では、HPを開設し、電話以外にもメールでの相談方法を取ったことで、一度
相談を受けた利用者から、継続的に相談を受けるケースも多かった。

栄養相談に関しては、迅速な対応により、ママたちの悩む時間を短縮させ、個々の
相談内容に丁寧に対応してきたため、再利用率が高かった。

事業効果

ママデイサービスの参加者アンケートでは、参加者の100%が参加してよかったと
回答し、参加者100パーセントがまた参加したいと答えた。参加者からの要望には即
座に対応し、毎回改善を重ねたこと。託児スタッフが育児のベテランで参加者が安心
して赤ちゃんを預けることができたこと。

ママデイサービス特別メニューを監修し食事を選択制にしたことで、より高い満足
度を得ることができた。

卒業した参加者の中には、惜しまれる声も多く、赤ちゃん以外に兄弟の託児を希望
する参加者の声もあった。

日頃の育児の疲れからほんのひととき解放され、心も体もリフレッシュして、また
育児をがんばろうという気持ちになってママたちが帰って行く様子を毎回見ること
ができ、ニーズの高さを感じた。

保健師と栄養士が事業に関わることで、発達の遅れや、離乳食の進具合などをチ
ェックすることができ、問題が大きくなる前に、市の担当者へ引き継ぎをすることが
できた。

ワークショップは、育児中のママのために役に立つ情報を提供できる内容で開催
し、好評だった講座は再度開催をした。講義中託児をしたことで、ママたちが講義に
集中することができ、お昼ご飯を提供し参加者全員で食事をしたことで、参加者同
士の交流や情報交換をする場を提供できた。

またワークショップから個別のスタジオレッスンへ誘導することもできた。

<p>今後の活動予定</p>	<p>次年度の事業計画</p> <p>① 「食」の困りごとお助け隊 電話・メール・HPからの栄養相談随時対応 離乳食・幼児食のスタジオレッスン・訪問指導随時対応 地区センター・子育て支援センターでの栄養相談 開催 市内15カ所 栄養講話および離乳食講座 2回 人員配置 栄養士1名/回</p> <p>② ママデイサービス 育児相談・栄養相談・ママのためのヨガ・食事・入浴・休憩 (赤ちゃんの託児) 募集人数 10組/回 開催 2回 人員配置 保健師1名・栄養士1名・ヨガインストラクター1名 託児8名/回</p> <p>③ ママのためのワークショップ 募集人数 6組/回 開催 8回 人員配置 ワークショップ講師1名・栄養士1名/回 アシスタント1名/回</p> <p>④ 幼稚園・保育園保護者対象講演会 市内幼稚園・保育園(希望園10園程度) 人員配置 栄養士1名/回</p> <p>⑤ スタジオ移設工事により、赤ちゃんの駅の登録と、スタジオレッスン及びワークショップの開催</p>
<p>自己評価</p>	<p>栄養相談は、ただ単に豊富な知識を持つ専門家のアドバイスだけではなく、育児の経験値も利用者に安心感を与え、繰り返し利用してもらえたことを実感した。その満足度が口コミで広がり、利用者から聞いた友達ママの相談を受けたり、ママ同士が誘い合ってスタジオレッスンに参加してくれたケースも多く、そこからまたママデイサービスやワークショップへの参加へ繋げることができた。</p> <p>小さな悩みにも丁寧にかつ迅速に対応し、利用者の心に寄り添ったサービスを提供でき、2年間を通じ継続的な支援もできていると思う。</p> <p>ママデイサービスに関しては、事業計画時の想定より、託児には人員数が必要であったことと、食事のキャンセル料が発生したこと、ワークショップの会場費がかかったことなどで、経費が予想以上にかかってしまった。</p> <p>また事業の準備には非常に手間がかかり、特にママデイサービスの参加希望者への連絡のやりとりや、前日当日のキャンセル対応、備品の用意などには当初の予想をはるかに超える時間がかかってしまった。</p> <p>しかし、利用者からのお礼のメールや、事業により問題解決に繋がり喜ばれる声に励まされ、赤ちゃんの可愛さに癒され、この事業の必要性和意義を感じた。</p> <p>これだけ満足度が高く、利用率の高い事業にも関わらず、行政の事業として取り組むことができないことが残念でならない。</p> <p>「子供の大事な時期に山下先生とお会いすることができてよかったです。本当に感謝しています！ありがとうございました。」</p> <p>生後4ヵ月から、食の困りごとお助け隊にご相談を受け、何度もメールや電話でのやり取りをしながら、現在9ヵ月になった赤ちゃんのママからいただいた感想。</p> <p>2年間継続してきたことで、関わった赤ちゃんやママたちの成長を見ていくこともでき、自分の励みになった。今後も一人でも多くの人に関わり、育児の不安を少しでも軽減させてあげられる存在になっていきたいと思う。</p>